

簿記論

トレーニング

<今回の学習内容>

第2回講義 使用ページ

問題8～14

問題編

問題 8 債権・債務

<解答P20>

基礎

— 8分 —

次の取引の仕訳を示しなさい。なお、商品売買は三分法で処理すること。

- (1) 商品500,000円を仕入れ、代金のうち100,000円は現金で支払い残額は掛とした。
- (2) 上記(1)の商品を600,000円で売り上げ、代金のうち200,000円は現金で受け取り、残額は掛とした。
- (3) 備品150,000円を購入し、代金は月末払いとした。
- (4) 土地（帳簿価額50,000円）を40,000円で売却し、代金は翌月10日に受け取ることにした。
- (5) 商品850,000円の注文をし、内金として200,000円を現金で支払った。
- (6) 上記(5)の商品が到着し、内金を除いた残額は掛とした。
- (7) 本日、給料日につき、給料12,000,000円（30人分）から従業員に対する立替金200,000円、社会保険料800,000円を差し引き現金で支払った。
- (8) 社員の出張につき、旅費交通費として20,000円を現金で仮払いした。
- (9) 上記(8)の出張した社員から現金50,000円の送金を受けたが、その内容が不明である。
- (10) 上記(8)の出張した社員が帰社し、上記(9)の送金は売買契約の手付金であることが判明した。
また、旅費交通費の精算を行い、不足額4,000円を現金で支払った。

【解答欄】

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				
(6)				
(7)				
(8)				
(9)				
(10)				

問題9 現金過不足(1)

<解答P21>

基礎

— 6分 —

問1 次の一連の取引につき仕訳を示しなさい。

- (1) 手許現金の実際有高を調査したところ、帳簿残高より1,500千円少なかった。
- (2) 上記(1)の不一致原因を調べたところ、買掛金の支払額3,000千円が未記帳であったことが判明した。
- (3) また、売掛金の回収額1,000千円を誤って100千円と記帳していたことが判明した。
- (4) 決算日となったが、残額についてはその原因が不明である。

問2 下記の【資料】に基づき、決算整理後残高試算表を示しなさい。

【資料1】

決算整理前残高試算表			(単位：千円)
現 金	1,380		
売 掛 金	5,550		

【資料2】決算整理事項

期末において、現金実査を行ったところ、金庫の中に次のものが保管されていた。

邦貨 1,200千円、他人振出小切手 200千円

帳簿残高と実際有高の差異について調べたところ、上記の他人振出小切手のうち50千円は、掛代金を回収した際に受け取ったものであるが、これに関する処理を行っていないことが判明した。なお、これ以外の原因は不明である。

【解答欄】

問1 (単位：千円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				

問 2

決算整理後残高試算表

(単位：千円)

現	金	(	)	
売	掛	金	(	)
(	)	(	)	

問題10 現金過不足(2)

<解答P23>

基礎

- ㊦ 6分 -

下記の【資料】に基づいて、次の問に答えなさい。

問 1 決算整理に必要な修正仕訳を示しなさい。

問 2 翌期に繰越される現金の残高を示しなさい。

【資 料】

当社の決算整理前における現金の帳簿残高は8,000千円であり、期末時点の実際有高は7,360千円であった。差異について調査したところ以下の事実が判明した。

- (1) 営業費600千円を支払った際、当社では誤って金額を60千円とし、かつ貸借反対に記帳していた。
- (2) 従業員の出張に際し、出張費用として200千円を仮払金に計上していた。期末日に従業員が帰社し、残金40千円を受取ったが未処理であった。なお、出張費用は営業費勘定で処理する。
- (3) 原因不明分については、雑損失勘定または雑収入勘定で処理する。

【解答欄】

問 1

(単位：千円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				

問 2

 千円

問題11 小口現金(1)

<解答P24>

基礎

- ㊦ 3分 -

下記の【資料】に基づいて、次の問に答えなさい。

問1 (1) 支払報告時及び(2)小口現金補給時の仕訳を示しなさい。

問2 小口現金について、(1)当月末に補給する場合の小口現金勘定の次月繰越額及び(2)翌月初に補給する場合の小口現金勘定の次月繰越額を求めなさい。

【資料】

月末に小払係より当月分の小口現金支払報告が次のとおりあり、次月分の資金を補充するため小切手を振り出して交付した。なお、当社は小口現金について、定額資金前渡制度（定額設定高20,000円）を採用している。

通信交通費 9,700円、光熱費 5,800円、雑費 3,400円

【解答欄】

問1

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				

問2 (1) 円 (2) 円

<メ モ>

問題12 小口現金(2)・現金過不足(3)

<解答P25>

応用

— 6分 —

当社の以下の【資料】に基づいて次の問に答えなさい（事業年度は4月1日～3月31日）。

問1 仮払金に関する決算整理仕訳を示しなさい。

問2 決算整理後残高試算表を示しなさい。

【資料1】

決算整理前残高試算表

(単位：円)

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
現 金 預 金	54,102,305	未 払 金	4,145,297
仮 払 金	400,000	雑 収 入	587,980
給 料 手 当	37,589,665		
交 際 費	15,200,587		
旅 費 交 通 費	6,598,780		
消 耗 品 費	245,120		
雑 損 失	43,210		

【資料2】

決算整理前残高試算表の仮払金勘定400,000円の内訳は以下のとおりである。

(1) 旅費の仮払金

当期の3月21日から3月29日の従業員の出張費用が未精算である。

仮払額 100,000円 発生額 120,000円

(2) 営業所に対する小口現金

小口現金として毎月1日に残高が300,000円となるように営業所に払い出しているが、当月の精算は、未済である。営業所からの報告によれば、3月分の小口現金使用高は以下のとおりであった。

取引先との懇親、食事代（交際費） 70,000円

事務用品の購入費（消耗品費） 25,000円

臨時人件費（給料手当） 120,000円

なお、小口現金の有高は、83,000円であった。小口現金の過不足について原因を追及したが不明であったので、雑損失又は雑収入（営業外損益）で処理する。

【解答欄】

問 1

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				

問 2

決算整理後残高試算表

(単位：円)

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
現 金 預 金		未 払 金	
給 料 手 当		雑 収 入	
交 際 費			
旅 費 交 通 費			
消 耗 品 費			
雑 損 失			

問題13 振込手数料

<解答P26>

基礎

— 3分 —

次の取引について各社の仕訳を示しなさい。

- (1) A社はB社から売掛金100,000円の当座振込を受けた。なお、振込手数料600円はA社負担である。
- (2) C社はD社に対する買掛金300,000円を当座決済した。なお、振込手数料600円はC社負担である。

【解答欄】

(1) (単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
A 社				
B 社				

(2) (単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
C 社				
D 社				

問題14 当座借越

<解答P26>

基礎

- ㊦ 3分 -

次の一連の取引を仕訳しなさい。なお、当社の当座預金の残高は50,000円であるが、当社は銀行と当座借越契約を結んでおり、借越限度額は400,000円である。また、会計処理は二勘定制により処理することとする。

- (1) 得意先であるA社から売掛金180,000円の当座振込のあった旨、銀行から通知を受けた。
- (2) B社に対する買掛金300,000円を、小切手を振り出して支払った。
- (3) C社に商品150,000円を販売し、代金として同社振出しの小切手を受け取り、直ちに当座預金とした。

【解答欄】

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				

確認 2

<解答P27>

確認

- ㊦ 15分 -

1 次の問に答えなさい。

問 1 次の一連の取引について、A社及びB社の仕訳を示しなさい。なお、商品売買については三分法により処理すること。

- (1) A社はB社に商品40,000円の注文を行い、代金のうち15,000円を現金で支払った。
- (2) A社はB社より、上記(1)の商品を仕入れ、代金の残額については掛とした。
- (3) A社は上記(2)の買掛金を現金により支払った。

問 2 次の一連の取引について、仕訳を示しなさい。

- (1) 前期末に売却した土地の売却代金40,000円について、当期に全額を相手先振出の小切手で受け取った。
- (2) 従業員の給料95,000円の支払いにあたり、源泉所得税等3,200円を差し引いた残額を当座預金から支払った。
- (3) ① 従業員の出張にあたり、旅費交通費の概算額30,000円を現金で渡した。
② 出張中の従業員から現金80,000円の送金を受けたが、その内容は不明である。
③ 出張中の従業員が帰社し、上記②の送金は得意先からの売掛金の回収額であることが判明した。
④ 旅費交通費の精算を行った結果、出張費用が35,000円で確定したため不足額を現金で支払った。

【解答欄】

問 1

(単位：円)

		借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
A 社	(1)				
	(2)				
	(3)				
B 社	(1)				
	(2)				
	(3)				

問 2

(単位：円)

		借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)					
(2)					
(3)	①				
	②				
	③				
	④				

- 2 当社（事業年度 4 月 1 日～3 月 31 日）の下記の資料に基づき、【資料 3】決算整理後残高試算表（一部）の①～④に入る金額を答えなさい。

【資料 1】決算整理前残高試算表（一部）

決算整理前残高試算表（一部）					（単位：千円）			
現	金	預	金	41,025	仮	受	金	7,000
売		掛	金	450,000				
仮		払	金	100				
営		業	費	858,360				
雑		損	失	100				

【資料 2】決算整理事項等

- 決算整理前残高試算表の仮払金は小口現金（毎月初に補給している。）に係るものであり、3 月分の支払報告（営業費の支払い 90 千円）が、未処理となっていた。
- 決算整理前残高試算表の現金預金のうち、現金の帳簿残高は 5,000 千円であり、期末の実際有高（上記(1)を除く。）は 4,000 千円であった。帳簿残高との差額のうち 880 千円は営業費の記帳もれであることが判明したが、その他の原因は不明であったため雑損失に振替える。
- 出張中の従業員から 7,000 千円の当座振込があった際、内容が不明であったので仮受金として処理していたが、全額が得意先に対する売掛金の回収である旨が判明した。

【資料 3】決算整理後残高試算表（一部）

決算整理後残高試算表（一部）				（単位：千円）			
現	金	預	金	①			
売		掛	金	②			
営		業	費	③			
雑		損	失	④			

【解答欄】

（単位：千円）

①		②		③		④	
---	--	---	--	---	--	---	--

<メ モ>

解 答 編

問題 8 債権・債務

【解 答】

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	仕 入	500,000	現 金	100,000
			買 掛 金	400,000
(2)	現 金	200,000	売 上	600,000
	売 掛 金	400,000		
(3)	備 品	150,000	未 払 金	150,000
(4)	未 収 金	40,000	土 地	50,000
	土 地 売 却 損	10,000		
(5)	前 渡 金	200,000	現 金	200,000
(6)	仕 入	850,000	前 渡 金	200,000
			買 掛 金	650,000
(7)	給 料	12,000,000	立 替 金	200,000
			預 り 金	800,000
			現 金	11,000,000
(8)	仮 払 金	20,000	現 金	20,000
(9)	現 金	50,000	仮 受 金	50,000
(10)	仮 受 金	50,000	前 受 金	50,000
	旅 費 交 通 費	24,000	仮 払 金	20,000
			現 金	4,000

問題 9 現金過不足(1)

【解 答】

問 1

(単位：千円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	現 金 過 不 足	1,500	現 金	1,500
(2)	買 掛 金	3,000	現 金 過 不 足	3,000
(3)	現 金 過 不 足	900	売 掛 金	900
(4)	現 金 過 不 足	600	雑 収 入	600

問 2

決算整理後残高試算表

(単位：千円)

現 金	(1,400)	
売 掛 金	(5,500)	
(雑 損 失)	(30)	

【解答への道】（単位：千円）

問 1

現 金		現金過不足	
帳簿残高	(1) 現金過不足 1,500	(1) 現 金 1,500	(2) 買掛金 3,000
	実際有高	(3) 売掛金 900	
		(4) 雑収入 600	

問 2

(1) 原因判明分

現 金	50	／	売 掛 金	50
-----	----	---	-------	----

(2) 原因不明分

雑 損 失	30	／	現 金※	30
-------	----	---	------	----

※ 帳簿残高：前 T/B 現金 1,380 + 原因判明分 50 = 1,430 △30
 実際有高：1,200 + 200 = 1,400 ←

現 金	
修正後帳簿残高	(2) 雑損失 30
1,430	前 T/B 1,380
	(1) 売掛金 50
	実際有高 1,400

または、次のように考えても良い。

現 金※ 1	20	／	売 掛 金※ 2	50
雑 損 失※ 3	30			

※ 1 帳簿残高：前 T/B 現金 1,380 +20
 実際有高：1,200 + 200 = 1,400 ←

※ 2 原因判明分（売掛金回収記帳漏れ 50）

※ 3 原因不明分（仕訳の差額）

問題10 現金過不足(2)

【解 答】

問 1

(単位：千円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	営 業 費	660	現 金	660
(2)	営 業 費	160	仮 払 金	200
	現 金	40		
(3)	雑 損 失	20	現 金	20

問 2

7,360 千円

【解答への道】(単位：千円)

問 1

(1) 誤記帳

① 適正な仕訳

営 業 費	600	/	現 金	600
-------	-----	---	-----	-----

② 当社が行った仕訳

現 金	60	/	営 業 費	60
-----	----	---	-------	----

③ 修正仕訳 (①－②)

営 業 費	660	/	現 金	660
-------	-----	---	-----	-----

(2) 出張精算

営 業 費※	160	/	仮 払 金	200
現 金	40	/		

※ 差額

(3) 過不足

雑 損 失	20	/	現 金※	20
-------	----	---	------	----

※ 帳簿残高：8,000－(1)660＋(2)40＝7,380

実際有高：7,360 (問2)

△20

問題11 小口現金(1)

【解 答】

問 1

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	通 信 交 通 費	9,700	小 口 現 金	18,900
	光 熱 費	5,800		
	雑 費	3,400		
(2)	小 口 現 金	18,900	当 座 預 金	18,900

問 2 (1) 円 (2) 円

【解答への道】(単位：円)

問 2

(2) 翌月初補給の場合における一連の流れは次のとおりである。

① 当月末報告時

通 信 交 通 費	9,700	小 口 現 金	18,900
光 熱 費	5,800		
雑 費	3,400		

② 次月繰越額

設定額 20,000－報告額 18,900＝

③ 翌月初補給時

小 口 現 金	18,900	当 座 預 金	18,900
---------	--------	---------	--------

問題12 小口現金(2)・現金過不足(3)

【解 答】

問 1

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	旅 費 交 通 費	120,000	仮 払 金	100,000
			未 払 金	20,000
(2)	交 際 費	70,000	仮 払 金	300,000
	消 耗 品 費	25,000		
	給 料 手 当	120,000		
	現 金 預 金	83,000		
	雑 損 失	2,000		

問 2

決算整理後残高試算表

(単位：円)

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
現 金 預 金	54,185,305	未 払 金	4,165,297
給 料 手 当	37,709,665	雑 収 入	587,980
交 際 費	15,270,587		
旅 費 交 通 費	6,718,780		
消 耗 品 費	270,120		
雑 損 失	45,210		

【解答への道】

- (1) 旅費の発生額に対する不足額 20,000 円は未精算であるため、未払金勘定で処理する。
- 決算日であるため、仮払金勘定（小口現金）の残額は現金預金勘定に振り替える。
- 設定額が 300,000 円、使用した合計額が 215,000 円であるため、あるべき小口現金有高は 85,000 円となるが、実際有高が 83,000 円であるため、差額 2,000 円は雑損失となる。

問題13 振込手数料

【解 答】

(1) (単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
A 社	当 座 預 金	99,400	売 掛 金	100,000
	支 払 手 数 料	600		
B 社	買 掛 金	100,000	当 座 預 金	100,000

(2) (単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
C 社	買 掛 金	300,000	当 座 預 金	300,600
	支 払 手 数 料	600		
D 社	当 座 預 金	300,000	売 掛 金	300,000

問題14 当座借越

【解 答】

(単位：円)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	当 座 預 金	180,000	売 掛 金	180,000
(2)	買 掛 金	300,000	当 座 預 金	230,000
			当 座 借 越	70,000
(3)	当 座 借 越	70,000	売 上	150,000
	当 座 預 金	80,000		

【解答への道】(単位：円)

(2) 買掛金支払額300,000－当座預金残高(50,000＋180,000)＝借越70,000

確認 2

【解 答】

1 問 1

(単位：円)

		借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
A	(1)	前 渡 金	15,000	現 金	15,000
	(2)	仕 入	40,000	前 渡 金	15,000
				買 掛 金	25,000
社	(3)	買 掛 金	25,000	現 金	25,000
B	(1)	現 金	15,000	前 受 金	15,000
	(2)	前 受 金	15,000	売 上	40,000
		売 掛 金	25,000		
社	(3)	現 金	25,000	売 掛 金	25,000

※「前渡金」勘定は「前払金」勘定でも正解とする。

問 2

(単位：円)

		借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)		現 金	40,000	未 収 金	40,000
(2)		給 料 手 当	95,000	預 り 金	3,200
				当 座 預 金	91,800
(3)	①	仮 払 金	30,000	現 金	30,000
	②	現 金	80,000	仮 受 金	80,000
	③	仮 受 金	80,000	売 掛 金	80,000
	④	旅 費 交 通 費	35,000	仮 払 金	30,000
				現 金	5,000

2

(単位：千円)

①	40,035	②	443,000	③	859,330	④	220
---	--------	---	---------	---	---------	---	-----

【解答への道】

1 解答参照

2 (単位：千円)

1 小口現金の未処理

営	業	費	90	/	仮	払	金	100
現	金	預	金	10				

2 営業費の記帳漏れ

営	業	費	880	/	現	金	預	金	880
---	---	---	-----	---	---	---	---	---	-----

3 現金過不足

雑	損	失	120	/	現	金	預	金※	120
---	---	---	-----	---	---	---	---	----	-----

※ (1) 実際有高：4,000

(2) 帳簿残高：5,000－880＝4,120

(3) (1)－(2)＝△120

4 仮受金

(1) 当座振込時

現	金	預	金	7,000	/	仮	受	金	7,000
---	---	---	---	-------	---	---	---	---	-------

(2) 内容判明時

仮	受	金	7,000	/	売	掛	金	7,000
---	---	---	-------	---	---	---	---	-------